

会 告

社団法人 土 木 学 会

行事案内	月 日	行 事 名	場 所	備 考
本 部	1月31日(火)	第1回土木計画学シンポジウム	土木学会	1号4ページ参照
	2月3日(金) ~4日(土)	第11回水理講演会	同	1号5 〃
	5月26日(金)	第53回通常総会	広島市	1号2 〃
	5月27日(土)	総合講演会	同	1号2 〃
	5月27日(土) ~28日(日)	学術講演会	同	1号2 〃
	5月27日(土)	懇親会	同	1号2 〃
	5月29日(月) ~30日(火)	見学会	中四地区	1号2 〃
	北海道支部	2月22日(水)	研究発表会	札幌市
3月8日(水)		講習会	同	1号6 〃
東北支部	2月21日(火)	研究発表会	仙台市	12号10 〃
中部支部	2月21日(火)	第2回講習会	名古屋市	1号7 〃
関西支部	1月18日(水)	海外事情講演会	大阪市	12号11 〃
	1月18日(水)	会員懇親会	同	12号11 〃
	1月24日(火)	大阪都市計画講演会	同	12号11 〃
	2月21日(火) ~22日(水)	耐震設計に関する講習会	同	12号11 〃
	3月23日(木) ~24日(金)	岩盤の調査・計測と設計・施工に関する講習会	大阪市	1号8 〃
	3月27日(月) ~28日(火)	水理学・水文学における最近の進歩に関する講習会	同	1号7 〃
西部支部	1月30日(月)	支部総会	福岡市	1号9 〃
	同	研究発表会	同	1号9 〃
そ の 他	1月26日(木) ~27日(金)	高分子材料の強度に関する講習会	大阪市	12号8 〃
	2月3日(金)	シエル構造の発達についての講演会	東京	12号12 〃
	2月4日(土)	水文学に関するシンポジウム	土木学会	12号8 〃
	2月14日(火) ~15日(水)	第5回原子力総合シンポジウム	東京	1号10 〃
お知らせ	<ul style="list-style-type: none"> ■昭和41年度土木学会賞候補ならびに吉田研究奨励金候補の募集について ■第13回国際道路会議 ■第4回理工学における同位元素研究発表会論文募集 ■日本建築学会賞について ■第8回藤原賞受賞候補募集について ■JIS 鋼材規格に関する講習会 ■昭和42年度科学研究費補助金の公募について 			12号2 〃 12号7 〃 12号9 〃 12号9 〃 1号3 〃 1号4 〃 1号29 〃

第 53 回通常総会および第 22 回年次学術講演会

昭和 42 年度通常総会および年次学術講演会は、つぎの日程で広島市において開催いたします。つぎの要領をご覧のうへ、1967 年 1 月 15 日（日）までに学術講演係（広島市千田町 3 丁目 8 の 2 広島大学工学部土木教室 網干寿夫教授 電話 広島 41-1161 内線 71）あて、期日を守って直接お申込み下さい。

総会、懇親会、見学会、講演概要などの申込み方法は学会誌 3 月号でお知らせいたします。

○行事日程

- | | | |
|----------------------------|----------------------------|---------------------|
| 1. 通常総会：1967 年 5 月 26 日（金） | 14 時～17 時 | 於 広島銀行本店会議室 |
| 2. 総合講演会： ” | 5 月 27 日（土） 9 時～12 時 | 於 見真講堂 |
| 3. 学術講演会： ” | 5 月 27 日（土） 13 時～17 時 | 於 広大教養部 |
| | ” 5 月 28 日（日） 9 時～17 時 | ” |
| 3. 懇親会： ” | 5 月 27 日（土） 18 時～19 時 30 分 | 羽田別荘 |
| 5. 見学会： | | |
| | (A) 広島近郊コース（市内観光～宮島） | 5 月 29 日（月）（5 時間） |
| | (B) 出雲路コース（玉造温泉泊，米子駅解散） | 5 月 29 日（月）～30 日（火） |
| | (C) 四国コース（高松泊，高知駅解散） | ” |

○土木学会第 22 回年次学術講演会実施要領

I. 講演要領

- ① 研究発表には、各部門ともできる限り、一般報告の方式を採用し、やむを得ない場合に限り著者自らによる個人発表の方式を採用する。
- ② 一般報告の方式は、同じ種別の論文数編ずつを、学会で委嘱した一般報告者が総括して報告し、その後で質疑討論を行なう。この場合の応答には、各著者が自らこれに当り、場合により著者の補足説明を認められる。
- ③ 一般報告に付する論文は学会で決定し、学会誌 3 月号に掲載する。
- ④ 講演概要の記述にあたっては、一般報告者が、その概要にもとづいて報告することを予想し、必ずそれぞれの研究の考え方と結論をわかりやすく書くこと。
- ⑤ 個人発表の方式では、講演時間を 10 分（交代時間を含む）とし、数編の講演後にまとめて質疑討論の時間を設ける。

II. 講演申込要領

- ① 講演者の資格：講演者の資格は土木学会会員に限ります。ただし連名者は非会員でも差し支えない。
- ② 講演申込方法：講演希望者は定められた申込カード（4 枚複写）に所定の事項を明記し、必ず 200 字程度のあらましを書き加え、1 月 15 日（火）までに学術講演係（広島市千田町 3 丁目 8 の 2 広島大学工学部土木教室 網干寿夫教授 電話 広島 41-1161 内線 71）あて直接申込むこと。
- ③ 申込カードは各支部に準備しているから各自所属支部へ請求されたい。
- ④ 講演内容は、原則として未発表のもので、1 人 1 題に限る。
- ⑤ 講演部門は、つぎの 4 部門に分ける。ただし都合により本人の了承を得て希望部門を変えることがある。
 - 第 1 部門：応用力学，構造力学，橋梁等
 - 第 2 部門：水理，水文学，河川，港湾，海岸，発電水力，衛生工学等
 - 第 3 部門：土質力学，基礎工学，土木機械，施工等
 - 第 4 部門：鉄道，道路，コンクリートおよび鉄筋コンクリート，土木材料，都市計画，空港，測量等
- ⑥ 原稿提出要領：

講演申込者はつぎの要領で講演概要の原稿を期日を守って提出すること。

- A. 講演概要集は、原稿をそのまま縮写して、オフセット印刷とするので、定められた原稿用紙を用いること。

- B. 原稿用紙は執筆要領とともに、各支部に準備しているから、所属支部へ請求すること。
- C. 原稿は、2月28日(火)までに学術講演係(広島市千田町3丁目8の2 広島大学工学部土木教室 網干寿夫教授 電話 広島 41-1161 内線 71)あて、期日を堅く守って直送すること。
- D. 原稿の長さは、原則として2ページとし、超過する場合は4ページとする。4ページでも超過料金は不要です。
- E. 講演概要集：司会者および一般報告者以外は有料とする。
- F. 講演概要の別刷：講演者(○印)には30部を無料贈呈し、超過部数の希望には応じません。

III. 学術講演の発表申込み者へのお願い

- ① 年々発表件数が増加し、当番の講演会係では、プロ編成、概要原稿の編集、同印刷発送など一連の作業進行上の期間が最小限にきり詰められているので、つぎに再掲する締切期日はくれぐれもお守り下さるよう、係より特にお願いたします。
 - (A) 学術講演申込カード：必着日 1967年1月15日(日)
 - (B) 同 講演概要の原稿： 同 2月28日(火)
- ② この締切期日が過ぎてから到着のものは、作業進行上全く余裕がないので、残念ながら受理できませんからあらかじめご了承ください。

第8回藤原賞受賞候補募集について

標記の件について藤原科学財団より候補者の推薦依頼がありましたので、下記の事項をご参照の上42年1月31日まで土木学会総務課へご連絡下さい。

記

- 1. 候補の対象：理学，工学，農学，医学の各部門で技術の発展に、特に貢献された方
- 2. 賞の種類：藤原賞(賞状，賞牌および副賞金500万円)
- 3. 推薦の方法：学会理事会において選考のうえ藤原科学財団へ推薦する。
- 4. その他：推薦用紙，要項の必要な方は総務課までご連絡下さい。

シェル構造の発達についての講演会

◀ 2月3日(金) ▶

W. Flügge 博士は、アメリカのスタンフォード大学の Department of Engineering Mechanics の教授でシェル構造理論に関する開拓者の一人として現在顕著な活躍をされている世界的な学者であります。

今回の来日を機に、シェル構造に関する講演をお願いすることになりました。シェル構造の理論は、応用力学の重要な部門として発展しており、航空機体、船舶、压力容器、大スパン屋根構造等に広い応用面をもっております。第一人者としての氏の講演はシェル構造に関心をもたれる研究者、技術者にご満足のゆくものと確信しておりますので多数ご来聴下さいますようご案内申し上げます。

共 催：日本鋼構造協会・日本建築学会・土木学会・造船協会・日本航空学会

- 1. 日 時：1967年2月3日(金) 14.00~16.00
- 2. 場 所：東京商工会議所ホール(馬場先門)
- 3. 演 題：シェル構造の発表について
- 4. 講 師：アメリカ・スタンフォード大学教授 W. Flügge 博士
- 5. 通 訳：建設省土木研究所 大久保忠良

第1回土木計画学シンポジウム

◀ 1月31日(火) ▶

土木学会土木計画研究委員会は1966年9月に発足した新しい委員会です。その事業の一つとして土木計画のあるべき姿とその問題点を検討し、あわせて計画に関する調査、研究等を推進するため、下記により第1回シンポジウムを開催することになりました。今回はまず土木計画のあり方と基礎理念に関する討論を中心とし、上記委員会において講演者を選び講演の公募はいたしません。土木技術者の活躍範囲において土木計画の分野がきわめて重要な事情にかんがみ、会員諸氏にはふるってご参加ご討論下さるようご案内申し上げます。

1. 期 日：1967年1月31日(火)
2. 会 場：土木学会土木図書館講堂
3. 参加費：会員1500円(講演概要代をふくむ)
4. 申込方法：参加費を添えて1月15日までに土木学会編集課までお申込み下さい。なお定員がありますので満員の際はお断わりすることがあります。

5. プログラム

9.30~9.40	開会あいさつ —<総論>—	土木学会土木計画学研究委員会 委員長 鈴木雅次 (司会 京都大学教授 米谷 栄二)	
9.40~10.10	土木計画と土木技術	京都大学教授 八十島 義之助	
10.10~10.40	土木計画と公共投資 —<各論>—	経済企画庁総合開発局長 加納 治郎	
10.40~12.00	土木計画手法に関連して 土木計画とOR 土木計画の手法に関連して 土木計画手法への反省 施工管理計画	(司会 名古屋工業大学教授 渡辺 新三) 京都大学助教授 吉川 和広 京都大学教授 佐佐木 綱 北海道大学教授 五十嵐 日出夫 鹿島建設土木企画部 佐用 泰司	
12.00~13.00	昼 食		
13.00~13.40	総合計画に関連して 国土・地域計画 土木計画・都市計画	(司会 東京大学教授 井上 孝) 日本大学助教授 川北 米良 建設省計画局地域計画課長 秀島 敏彦	
13.40~15.00	総合開発と社会開発に関連して 水資源計画 防災計画 環境衛生計画—公害を中心として— 細光計画論から土木計画論	(司会 東京大学助教授 高橋 裕) 建設省関東地建河川部長 西川 喬 京都大学教授 石原 安雄 京都大学教授 山本 剛夫 東京工業大学助教授 鈴木 忠義	
15.00~15.10	休 憩		
15.10~16.50	交通計画に関連して 地域計画と交通 起終点施設計画と土木計画 大都市問題と交通計画 都市鉄道計画の基礎理念 交通施設投資の交通体系について	(司会 北海道大学教授 小川 博三) 九州大学教授 内田 一郎 京都大学教授 長尾 義三 名古屋大学教授 毛利 正光 東北大学教授 多谷 虎男 京都大学教授 天野 光三	
16.50~17.20	所感(土木計画と私)	日本大学名誉教授 鈴木 雅次	
17.20~17.40	“土木計画のあり方と基礎理念”に関するまとめ	京都大学教授 長尾 義三	
17.40~17.50	閉会のあいさつ	京都大学教授 石原 藤次郎	

注) 各講演者の論題は多少変更されることがあります。

JIS 鋼材規格に関する講習会

日本鉄鋼協会主催による JIS 鋼材規格講習会を下記のとおり開催しますのでお知らせいたします。

1. 期日および会場

開催地	期 日	会 場	所 在 地	乗 物
東 京	2月2日(木)	日本規格協会大講堂	東京都港区赤坂 4-1-24	都電、都バスおよび地下鉄丸の内線銀座線赤坂見付下車徒歩3分
名 古 屋	2月6日(月)	愛知県中小企業会館	名古屋市中村区堀内町	大阪駅前より市バス④、⑭「堺筋あべの橋行」に乗車、「高麗橋」下車東へ150m左側
大 阪	2月7日(火)	日本経済新聞社7階講堂	大阪市東区高麗橋 1-1	
広 島	2月9日(木)	広島商工会議所	広島市基町 5-14	
北 九 州	2月10日(金)	八幡製鉄教育センター	北九州市八幡区中尾町 1	

2. 聴講料：1500円(テキスト代を含む)

3. 詳細は直接日本鉄鋼協会(東京都千代田区大手町1丁目5番地 経団連会館3階 電話 279-6021(代)へお問合せ下さい。

第 11 回 水 理 講 演 会

◀ 2 月 3 日 (金) ~ 4 日 (土) ▶

第 11 回水理講演会を下記により開催いたしますので多数ご参加下さるようご案内いたします。

1. 会 場：土木学会土木図書館講堂

2. 主 催：土木学会水理委員会

3. プログラム：第 1 日・2 月 3 日 (金)

10.00~10.05	開会あいさつ	土木学会水理委員会委員長	石原 藤次郎
10.05~10.25	① Sand Wave に関する研究—砂堆の形状について—	建設省土木研究所	石崎 勝義
10.25~10.45	② Sand Wave のスペクトル特性について	京都大学防災研究所	声田和男・○田中祐一朗
10.45~11.05	③ 移動床形態の区分とくに砂礫堆の形成限界について	東京大学生産技術研究所	井口昌平・○鮎川 登
11.05~11.25	④ 蛇行発生に関する微小振動の考察 討 議 ①~④	名古屋大学工学部	足立 昭平
12.05~13.20	昼 食・休 憩		
13.20~13.40	⑤ 複断面水路における平衡縦断形状について	建設省土木研究所	須賀 堯之
13.40~14.00	⑥ ダム下流の河床低下	岐阜大学工学部	○河村三郎・コロラド州立大学 D.C. サイモンズ
14.00~14.20	⑦ 河口砂州の崩壊について	建設省土木研究所	土屋 昭彦
14.20~14.40	⑧ 掃流砂礫によって生じる抵抗について	京都大学防災研究所	矢野勝正・京都大学工業教員養成所 ○大同淳之
14.40~15.10	討 議 ⑤~⑧		
15.10~15.30	⑨ サージタンクの安定性に対する既往の研究成果について(3)	九州電力KK	村瀬 次男
15.30~15.40	討 議 ⑨		

第 2 日・2 月 4 日 (土)

9.30~9.50	⑩ 超音波流速計による河川乱流の測定	京都大学防災研究所	○石原安雄・余越正一郎
9.50~10.10	⑪ 自由落下水の分散	電力中央研究所	坂本 竜雄
10.10~10.30	⑫ 鉛直上向き噴流に関する実験的研究	大阪大学工学部	室田 明・○村岡浩爾・中山茂雄
10.30~10.50	⑬ 自由水面上における固体粒子の拡散について	京都大学工学部	岩佐義朗・○今本博健・井上和也・白砂孝雄
10.50~11.10	⑭ 水面上に水平に放出される温水の拡散について	中央大学理工学部	○林 泰造・首藤伸夫・川上克巳
11.10~11.30	⑮ 密度流の流速分布に関する実験	電力中央研究所	○日野幹雄・四方 浩・中井直行
11.30~12.00	討 議 ⑩~⑮		

◎講演集：参加者の便宜のため当日会場で頒布いたしますから、ご必要の方はお買求め下さい（B5判 100 ページ程度、価格未定）

水文学に関するシンポジウム

◀ 2 月 4 日 (土) ▶

日本学術会議水特別委員会および災害科学総合研究班河川分科会主催、土木学会水理委員会後援のもとに水文学に関するシンポジウムを下記により開催いたしますので多数ご参加下さるようご案内いたします。

1. 日 時：1967 年 2 月 4 日 (土) 13.00~17.00

2. 会 場：土木学会土木図書館講堂

3. プログラム：

13.00~13.05	挨拶	京都大学教授	石原 藤次郎
13.05~13.20	① 水文学における二、三の新知見 ●河川流出の推算 ●流出過程におよぼす河道の効果 ●中間流出と山崩崩壊 ●流量の統計的予測	北海道大学教授 京都大学助教授 岩手大学教授 京都大学教授	岸 力 高 棹 琢 馬 武 田 進 平 角 屋 睦
15.20~15.30	休 憩		
15.30~16.15	② 水文学における R I の利用	建設省土木研究所化学研究室長	近 藤 紀
16.15~17.00	③ 水文学における航空写真の利用	東京大学教授	丸 安 隆 和

◎講演概要は印刷のうえ、当日参加者に配布いたします。

北海道支部行事案内 (札幌市南一条西2丁目 勸銀ビル5階)
電話 札幌 25-2211 内線 252

(1) 研究発表会

◀ 2月22日(水) ▶

1. 場 所: 札幌市民会館

2. 発表内容:

第1会場(札幌市民会館2階2号室)

- ① 9.40~10.00 屈曲部における波の変形に関する実験的研究(Ⅱ) 北大 ○佐藤幸雄・尾崎 晃・石田昌寿
- ② 10.00~10.20 湖口処理について 開発局 宇田居 晋一
- ③ 10.20~10.40 大樹附近の波浪特性と海岸 北海道 戸 卷 昭三
- ④ 10.40~11.00 噴流の拡散について 北大 板 倉 忠 興
- ⑤ 11.00~11.20 北海道の交通特性について(その1)一交通量特性一 北大 ○斎藤和夫・安藤 昭・加来照俊・板倉忠三
- ⑥ 11.20~11.40 北海道における将来貨物輸送量の推定について 北大 ○児玉信雄・小川博三・五十嵐日出夫
- ⑦ 11.40~12.00 都市街路網における交通量制御に関する研究(昼 食 休 憩) 北大 ○山村悦夫・小川博三・五十嵐日出夫
- ⑧ 13.00~13.20 札幌市の通勤通学輸送について(Ⅰ)一主として市電バス一 北大 ○伊藤昌勝・小川博三・五十嵐日出夫
- ⑨ 13.20~13.40 千歳飛行場の舗装評価一主として滑走路について一 札幌防衛施設局 尾 崎 義 勇
- ⑩ 13.40~14.00 空港のターミナルエプロン計画について一新北海道空港への適用一 北大 ○清水浩志郎・小川博三・五十嵐日出夫
- ⑪ 14.00~14.20 空港除雪に関する一考察一ロードヒーティングシステムの適用一 北大 ○本堂直和・清水浩志郎・笠原 篤・高谷俊臣・吉村 明
- ⑫ 14.20~14.40 舗装用無空隙アスファルト合材の変形に関する一考察一主としてズレの粘弾性一 北大 ○中島昭雄・田淵信行
(休 憩 10 分)
- ⑬ 14.50~15.10 美々試験道路による凍上対策置換工法に関する2,3の知見について 開発局 ○久保 宏・小山道義・平尾 晋・太田昌昭・高橋 教・佐々木政男・神崎敏郎
- ⑭ 15.10~15.30 火山灰の凍上性と凍結融解後のCBRについて 開発局 ○荻野治雄・高橋 毅・佐々木政男
- ⑮ 15.30~15.50 基礎杭の水平振動について 開発局 井 藤 昭 夫
- ⑯ 15.50~16.10 くい基礎のパネ常数の設計上の評価について 北海道開発コンサルタントKK ○阿部洋七郎・須田 勲

第2会場(札幌市民会館2階4号室)

- ① 9.40~10.00 曲げねじりを考慮した曲線格子桁の荷重分配性状について 北大 稼 農 知 徳
- ② 10.00~10.20 ねじり剛性ある主げたをもつ斜角格子げたの解析と計算 北見工大 菅 原 登
- ③ 10.20~10.40 曲げねじりを考慮した連続曲線格子桁の解析と計算 北大 渡 辺 昇
- ④ 10.40~11.00 5径間連続曲線桁橋の近似的振動解析の計算例 開発局 ○大島 久・青木 弘・井井忠明
- ⑤ 11.00~11.20 5径間連続曲線桁のプログラミングについて一無意根大橋一 北海道開発コンサルタントKK ○津田義和・竹中勝好
- ⑥ 11.20~11.40 曲線材を含む立体ラーメンの振動について 開発局 ○外崎 忍・芳村 仁
- ⑦ 11.40~12.00 接着合成床板橋の実験的研究一エポキシ樹脂接着剤による合成床板の実験一 函館工業高等専門学校 ○三浦 登・渡辺 昇
(昼 食 休 憩)
- ⑧ 13.00~13.20 連続桁の型式選定に関する一考察一新石狩大橋一 北海道開発コンサルタント ○斎藤 紘・小西輝久・高橋陽一・才田正晴
- ⑨ 13.20~13.40 下部構造物のパネ定数についての一考察一特に高橋脚橋梁一 北海道開発コンサルタントKK ○高谷 弘・鈴木欣治
- ⑩ 13.40~14.00 差分方程式で表わされる不静定構造物の和分変換による解法例 室工大 能 町 純 雄
- ⑪ 14.00~14.20 超硬練コンクリートブロックの強度に及ぼす分散剤の影響について 共和コンクリート工業KK ○山本 実・相沢電之助・伊福部宗夫
- ⑫ 14.20~14.40 フライアッシュセメントを使用したモルタルの空気連行性について 北海道電力KK ○伊藤哲夫・柄尾和男
(休 憩 10 分)
- ⑬ 14.50~15.10 ダムコンクリート内部温度の平面分布に及ぼす外気温の影響について 北大 ○藤田睦博・山岡 勲
- ⑭ 15.10~15.30 奈井江火力発電所ポンプ室仮締切工事について 大成建設KK札幌支店 ○宗像治郎・高橋睦雄
- ⑮ 15.30~15.50 金山発電所の設計と施工について 北海道電力KK 戸 村 優 夫

3. その他: 本研究発表の内容は技術資料第23号として刊行当日頒布します(支部所属会員は無料)。

(2) 講習会

◀ 3月8日(水) ▶

1. 場 所: 札幌市民会館2,3号室

2. 講習科目:

- ① 9.00~10.10 コンクリートの設計施工上の2,3の問題点 北海道開発局土木試験所 林 正 道
- ② 10.15~11.15 異形鉄筋使用上の2,3の問題点 北海道大学工学部 藤 田 嘉 夫
- ③ 11.20~12.20 構造物の震動について 北海道大学工学部 芳 村 仁
- ④ 13.00~14.00 気泡モルタルによるトンネル裏込注入について 国鉄札幌工事局線増課 太 田 敏 一郎
- ⑤ 14.05~15.05 最近の場所打杭工法(特にPIP工法) 清水建設KK土木計画部 嵯 野 二 男
- ⑥ 15.10~16.10 過含水土の土工上の問題点 北海道開発局札幌開発建設部 大 谷 光 信

3. その他: 聴講自由・テキストを有料で頒布予定

中部支部行事案内 (名古屋市中村区笹島町1の223
名古屋鉄道(株) 土木部内 電 名古屋 571-2111)

昭和 41 年度第 2 回講習会

◀ 2 月 21 日 (火) ▶

1. 日 時: 1967 年 2 月 21 日 (火) 9.00 より 17.00 まで
2. 場 所: 愛知県産業貿易館 4 階第 1 会議室
3. 定 員: 200 名
4. 題目と講師:

9.00~9.10	挨拶	土木学会中部支部長	榎 修 仁
9.10~10.00	人工軽量骨材コンクリートの配合設計	京都大学工学部	西 林 新 蔵
10.10~11.00	人工軽量骨材コンクリートの施工法に関する研究	清水建設(株)	鳥 田 専 右
11.10~12.00	人工軽量骨材コンクリートの力学的性質	名古屋大学工学部	小 坂 義 夫
13.00~13.50	人工軽量骨材コンクリートを用いた PC 桁の研究	国鉄名古屋鉄道管理局	菅 原 操
14.00~14.50	人工軽量骨材コンクリートの設計施工上の問題点	東京都立大学工学部	村 田 二 郎
15.00~15.50	人工軽量骨材コンクリートを用いた合成桁の研究	名古屋大学工学部	成 岡 昌 夫
16.00~16.50	人工軽量骨材コンクリート設計施工指針案(土木学会) 人工軽量骨材使用軽量コンクリートの施工指針及び解説(材料学会)	京都大学工学部	岡 田 清

5. 受 講 費: テキスト代共 会 員 1 000 円 非会員 1 300 円
6. 申込みおよびお問合せ: 1967 年 2 月 11 日 (土) までに会費を添えて中部支部へ勤務場所, 氏名を記入してお申込み下さい。申込み多数の場合は期限前でもお断りする場合がありますからご了承下さい。

関西支部行事案内 (大阪市東成区中道元町 1 丁目 149 番地
電 大阪 (06) 981-2510 振替口座 大阪 82599 番)

(1) 講習会「水理学・水文学における最近の進歩」

◀ 3 月 27 日 (月) ~ 28 日 (火) ▶

共催: 土木学会関西支部・土木学会中部支部

1. 期 日: 1967 年 3 月 27 日 (月), 28 日 (火) の両日
2. 場 所: 大阪科学技術センター 8 階大ホール 電話 大阪 (06) 443-5321
大阪市西区靉 1 丁目 118 番地 (地下鉄 3 号線信濃橋下車北へ 150 m 靉公園北東角)

3. 題目と講師:

第 1 日 (3 月 27 日)

	開会の挨拶	土木学会関西支部長	小 西 一 郎
(1)	河川工学		
1.1	9.00~9.20 河川工学における最近の進歩	{大阪大学教授 工博	室 田 明 夫
1.2	9.20~9.50 河川の汚濁	{名古屋大学教授 工博	西 畑 勇 夫
1.3	9.50~10.20 河川の乱れ	神戸大学助教授	清 水 進
1.4	10.30~11.00 河口湖淡水化	京都大学助教授	農 修 余 越 正 一 郎
1.5	11.00~11.30 洪水処理計画	京都大学助教授	農 博 南 敷
1.6	11.30~12.00 ダム下流の河床低下	京都大学助教授 工修	長 尾 正 志
		岐阜大学助教授 MS	河 村 三 郎

(2) 水 理 学

2.1	13.00~13.20 水理学における最近の進歩	{京都大学教授 工博	岩 佐 義 朗
2.2	13.20~13.50 不等流の差分計算	{名古屋大学教授 工博	足 立 昭 平
2.3	13.50~14.20 弯曲部の流れ	名古屋大学助教授 工博	村 本 嘉 雄
2.4	14.30~15.00 開水路流れにおける乱流拡散過程	京都大学助教授 工修	今 本 健 健
2.5	15.00~15.30 ジェット流	大阪大学講師	村 岡 浩 爾
2.6	15.30~16.00 開水路分流の水理	京都大学助教授 工修	中 川 博 次
	16.00~17.00 質疑応答		

第 2 日 (3 月 28 日)

(3) 水 文 学

3.1	9.00~9.20 水文学における最近の進歩	{京都大学教授 工博	石 原 安 雄
3.2	9.20~9.50 洪水の流出	{金沢大学助教授 工修	高 瀬 信 忠
3.3	9.50~10.20 地下水流出	京都大学助教授 工修	高 棹 琢 馬
3.4	10.30~11.00 低平地の流出	京都大学講師	工 修 高 木 不 折
3.5	11.00~11.30 土砂の流出	京都大学助教授 農修	豊 国 永 次
		京都大学助教授 工博	土 屋 義 人

3.6	11.30~12.00	確率洪水の推定	金沢大学助教授 工修 高 瀬 信 忠
	13.00~13.30	特別講演	京都大学教授 工博 石 原 藤 次 郎
(4) 海岸工学			
4.1	13.30~13.50	海岸工学における最近の進歩	{京都大学教授 工博 岩 垣 雄 一 名古屋工業大学教授 工博 細 井 正 延
		海岸堤防に関する二、三の問題	名古屋工業大学教授 工博 細 井 正 延
4.2	13.50~14.20	湾内の流れ	京都大学助教授 理博 樋 口 明 生
4.3	14.30~15.00	海岸の模型実験	京都大学助教授 工修 野 田 英 明
4.4	15.00~15.30	漂砂	大阪大学助教授 工博 榎 木 亨
	15.30~16.30	質疑応答	
		閉会の挨拶	土木学会関西支部幹事長 伊 藤 富 雄

4. 定 員：300 名
5. 参 加 費：会 員 1500 円 (テキスト代を含む) ただし講習会当日は 2000 円となりますので、期限内に前納して下さい。
非会員 2000 円 (テキスト代を含む)
6. 申 込 期 限：1967 年 3 月 11 日 (土)
7. 申 込 方 法：参加希望者は勤務先、連絡先、氏名および会員の種別を明記 (様式随意) して上記参加費を添えて 3 月 11 日 (土) までに土木学会関西支部へお申し込み下さい。
ただし申込期限内でも定員に達した時は先着順で決めますから早く申し込んで下さい。
参加者には参加証をお送りしますから当日は必ずご持参下さい。
参加証のない人は入場をお断りします。
(注) 都合により講師の順序に変更があるかもしれませんのでご了承下さい。なお中部地区において 1967 年 5 月愛知県産業貿易館にて同講習会を行なう予定です。

(2) 岩盤の調査・計測と設計・施工に関する講習会 ◀ 3 月 23 日 (木) ~ 24 日 (金) ▶

共催：日本材料学会岩石力学部門委員会・日本材料学会関西支部
協賛：土木学会関西支部・土質工学会関西支部・日本鉱業会近畿支部

1. 期 日：1967 年 3 月 23 日 (木), 24 日 (金)
2. 場 所：大阪科学技術センター 401 号室 電話 大阪 (06) 443-5321
大阪市西区靱 1 丁目 118 番地 (地下鉄 3 号線信濃橋下車北へ 150 m 靱公園北東角)

3. 題目と講師：

第 1 日 (3 月 23 日)

		開会の挨拶	日本材料学会関西支部長 奥 島 正 一
9.00~10.30	①	岩石の変形と破壊	神戸大工 桜 井 春 輔
10.30~12.00	②	岩盤の強度と安全性	名大工 川 本 朧 万
13.00~14.00	③	地質との関連における岩石力学	京大名誉教授 横 山 次 郎
14.00~15.30	④	航空写真の地質調査への利用	関西電力 門 脇 慶 太 郎
15.30~17.00	⑤	岩盤の現地計測と設計のための模型実験	電力中研 林 正 夫

第 2 日 (3 月 24 日)

9.00~10.30	⑥	地下空洞のまわりの地圧現象とその対策	京大工 平 松 良 雄
10.30~12.00	⑦	トンネル土圧について	京大防災研 村 山 朔 郎
13.00~14.00	⑧	岩盤力学の最近の動向	東大工 鈴 木 光
14.00~15.30	⑨	ダム基礎岩盤の改良処理工法	建土木研究所 石 井 文 雄
15.30~17.00	⑩	爆破による岩盤掘削	京大工 伊 藤 一 郎
		閉会の挨拶	日本材料学会岩石力学部門委員会委員長 飯 田 汲 事

4. 定 員：200 名
5. 参 加 費：共催・協賛学会会員 2500 円 (テキスト代を含む)
非 会 員 3500 円 (テキスト代を含む)
6. 申 込 期 限：1967 年 3 月 18 日 (土)
7. 申 込 方 法：参加希望者は勤務先、連絡先、氏名および所属学会名を明記し (様式随意) 上記参加費を添えて 3 月 18 日 (土) までに下記申込先へお申し込み下さい。
参加者には参加証をお送りいたしますから当日は必ずご持参下さい。
参加費の払いもどしはいたしません。
なお、テキストのみご希望の方は 1 部 1500 円にて頒布します (ただし発送は講習会終了後)。

申 込 先：日本材料学会講習会係 電 京都 (075) 76-5321
京都市左京区吉田泉殿町 1 の 101 振替口座 京都 26625 番

西部支部行事案内 (福岡市舞鶴1丁目4の1 九州建設広済会内 電 福岡 74-1972)

(1) 昭和 41 年度西部支部総会

◀ 1月30日(月) ▶

昭和 41 年度支部総会を下記のとおり開催します。本掲載をもって案内いたしますので会員多数ご出席下さい。

記

1. 日 時: 1967 年 1 月 30 日(月) 9.00~
2. 場 所: 福岡市福岡大学平和台学舎(市電, または西鉄バス大手門下車)
3. 備 考: 総会終了後研究発表会を開催いたします。

(2) 昭和 41 年度研究発表会

◀ 1月30日(月) ▶

1. 日 時: 1967 年 1 月 29 日(日) 10.00~16.50
2. 場 所: 福岡市福岡大学平和台学舎
3. 主 催: 土木学会西部支部・土質工学会九州支部
4. 参 加 料: 無料, テキスト代 800 円(当日払)
5. プログラム:

◎ 第 1 会 場 応用力学・構造力学・橋梁等

- ① 鋼管橋脚の耐震計算に使用すべき地震の強さについて 九大 小坪清真・○高西照彦
- ② ランダム地震波による杭基礎の応力 九大 小坪清真・○緒方信英
- ③ 地中構造物に対する地盤の仮定質量について 九大 小坪清真・○花田和史
- ④ 円形曲り梁の面外振動 九大 山崎徳也・○高山 毅
- ⑤ 連続等方性矩形板の固有周期算定法 九大 山崎徳也・樗木 武・○横田 漢
- ⑥ 等方性斜板の振動解析 九大 山崎徳也・彦坂 照・○古川恒雄
- ⑦ 無次元解析法によるアーチダムのたわみおよび応力の挙動特性の研究 熊大 三池 亮次
- ⑧ 第 2 関門道路・主橋梁部の設計指針について 九州地建 安達安正
- ⑨ 天草連絡道路第 1 号橋鋼連続トラスの振動試験 熊大 吉村虎蔵・平井一男・田久英明・○増見豊彦
- ⑩ 天草連絡道路第 3 号橋 PC ラーメンの振動試験 熊大 吉村虎蔵・平井一男・○田久英明・増見豊彦
- ⑪ クラウンの水平変位を拘束するときの 2 ヒンジプレストアーチ橋の動的挙動 熊大 吉村虎蔵・○瀬戸口敏
- ⑫ フーリエ級数による格子桁の解法 九大 山崎徳也・樗木 武・堤敬二郎
- ⑬ 軸線を含む面に垂直な荷重を受ける連続円形曲り梁の解法 九大 山崎徳也・○樗木 武
- ⑭ Helicoid 部材の力学的特性について 九大 山崎徳也・太田俊昭・○後藤栄一
- ⑮ カスチレーテッドビームに関する研究(主として高さの変化の影響について) 九大 村上 正・○齋藤利一郎・平野喜三郎

◎ 第 2 会 場

- ⑯ 局部的等分布荷重を受ける矩形板の安定(周辺単純支持と固定の場合) 九大 山崎徳也・○後藤恵之輔
- ⑰ 弾性支持ばりをもつ矩形板の解法(一対辺が連続ばりにて弾性支持され他対辺が単純支持される場合) 九大 山崎徳也・樗木 武・○金子忠男
- ⑱ 一対辺が点支持され他対辺が単純支持される矩形板の解法 九大 山崎徳也・樗木 武・○山田喜四夫
- ⑲ 無梁板の解法(一対辺が固定または単純支持され, かつ中間柱にて点支持される場合) 九大 山崎徳也・樗木 武・○今岡亮司
- ⑳ 矩形板の変形公式 九大 山崎徳也・太田俊昭・○馬場先勝弘
- ㉑ Z 方向連続等方性矩形板の安定 九大 山崎徳也・彦坂 照・○葛城幸一郎
- ㉒ 長方形孔を有する板が曲げおよび捩りをうけるときの孔縁応力 九大 山崎徳也・後藤恵之輔・○岡田 実
- ㉓ キャスタラ形有孔ばりに関する実験的研究 九大 平野喜三郎
- ㉔ カーブプレートをもつ変断面ばりの弾塑性解析 九大 山崎徳也・石川信隆・○松隈秀信
- ㉕ 衝撃荷重を受ける片持ばりの弾塑性解析 九大 山崎徳也・石川信隆・○黒木健実
- ㉖ 軸方向力を考慮した連続円弧アーチの弾塑性解析 九大 山崎徳也・○石川信隆
- ㉗ Hybrid I 形ばりの弾塑性解析 九大 山崎徳也・太田俊昭・○片山 忠
- ㉘ 任意横荷重を受ける片持ばりの弾塑性変形 九大 山崎徳也・○速水昭正・福岡建設コンサルタント 須藤 実
- ㉙ 弾性および弾塑性時における直線部材の撓み曲線算定法 九大 山崎徳也・○太田俊昭

◎ 第 3 会 場 水理学・河川・港湾・海岸工学・発電水力・衛生工学等

- ① 台風域内の波の分布について 九大 井島武士・松尾隆彦・○副島 毅
- ② レーダーを用いた波浪観測資料の解析方法について 九大 井島武士・松尾隆彦・○石川敏雄
- ③ 内部波の波高計について 九大 粟谷陽一・宮大 ○島田米夫
- ④ 特殊異形ブロックの消波効果に関する 2, 3 の実験について 九大 井島武士・○松尾隆彦・福岡市港湾局 島田長彦
- ⑤ 低落差発電所の取水口型状について 宮大 吉高益男
- ⑥ サージタンクに対する 2, 3 の研究 九州電力 村 瀬 次 男
- ⑦ 貯水池の堆砂過程について (II) 九大 樗 東 一 郎
- ⑧ 轟ダム撤去による河床変動 (建) 前 宮崎工事 五十嵐章・(建) 宮崎工事 若松基夫
- ⑨ 大野川の河床について 九大 樗東一郎・○古本勝弘
- ⑩ 流砂量式に関する 2, 3 の考察 九大 樗東一郎・○平野宗夫
- ⑪ 河口密度流(弱混合)について 九大 樗東一郎・○浜村 実・古本勝弘
- ⑫ 淡水汲み上げによる淡水境界の上昇について 九大 上田年比古・○崎山正常

- ⑬ 陽イオン界面活性剤による凝集について 九大 上田年比古・楠田哲也・○加納正道
- ⑭ 甘藷でん粉廃液処理の実験的研究 宮大 ○石黒政儀・大野重直・都留敏郎
- ⑮ 水平沈澱池の密度流と死水領域の発生機構について 九大 ○栗谷陽一・桐岡洋子
- ⑯ 下水道計画における降雨と流出の実測的研究 宮大 石黒政儀・岡田 実・○広瀬忠夫
- ⑰ 上向流式高速接触池におけるプランケットの安定性について 九大 栗谷陽一・○楠田哲也

◎ 第4会場 土質力学・基礎工学・施工等

- ① 間ゲキ圧を土圧計で測定した三軸圧縮試験 九大 内田一郎・○松本謙三・鬼塚克忠・田中拓郎
- ② 土の等価的繰返し荷重について 九大 山内豊聡・○羅文鶴
- ③ ラーメン構造物による不同圧密沈下について 九大 ○山内豊聡・日本技術開発 佐竹正行
- ④ インターロッキングを考慮したシラス瀝の安定について 九大 山内豊聡・○春山元寿
- ⑤ シラス層の安定性について 宮大 藤本 広
- ⑥ 岩盤の簡易弾性波探査について 熊大 井上 正 康
- ⑦ 載荷重をうける空積ムブロック擁壁の実験 九大 水野高明・徳光善治・○政近純光
- ⑧ ヒューム側溝に関する実験的研究 九大 内田一郎・松本謙三・○鬼塚克忠・日本ヒューム管 荒尾義明・早野正義
- ⑨ アースダム盛土に使用される粘性土の強度常数に関する実験的考察 九州電力 赤 司 六 哉
- ⑩ ベントナイトを用いた漏水防止工について 九大 徳光善治・九州工大 ○出水 隆
- ⑪ 土による災害事故例について 福大 吉田信夫・○松田有弘
- ⑫ 遠賀流域特殊地盤について (建) 遠賀川工事 深 堀 政 喜
- ⑬ 美々津大橋の架設工事について (建) 官崎工事 蔵 田 正 夫
- ⑭ 杭の水平載荷試験について (運) 博多港工事 ○福田伸男・馬渡敏次・川鍋清謙
- ⑮ 斜組杭の応力に及ぼす地盤変形の影響 九大 小坪清真・○荒牧重治

◎ 第5会場 コンクリートおよび鉄筋コンクリート・土木材料・道路・交通等

- ① 軽量コンクリートの設計法について 九大 水野高明・○清水定光
- ② コンクリートばりの曲げクリープについて 九大 水野高明・石川達夫・○鳥巢賢至
- ③ P C合成桁のクリープ解析 九州工大 渡辺 明・○石川啓文
- ④ 鉄筋コンクリート斜スラブの解法 九大 山崎徳也・○彦坂 照
- ⑤ 九州地方におけるアスファルト混合物の剝離現象について (建) 久留米技術事務所 谷 本 誠 一
- ⑥ アスファルト混合物におけるフィルラーの影響について 九大 内田一郎・○湯村竜洋・(建) 九州地建 針貝武紀
- ⑦ 粗骨材の石質形状がコンクリートに与える影響について 宮大 久原中吾・○藤瀬 勉
- ⑧ Network 手法の動向に関する考察 福大 吉田 信 夫
- ⑨ 車種別交通発生量に関する一考察 (建) 九州地建 ○神田九思男・藤井崇弘
- ⑩ 九州地方における観光バス交通について (建) 九州地建 神田九思男・○藤井達也
- ⑪ 住宅団地における通勤・通学の実態 九大 内田一郎・○坂本修一・佐々木恒香
- ⑫ 自家用乗用車保有台数の将来推計 (主として消費水準との関連から) (建) 九州地建 神田九思男・藤井崇弘・建設省技術調査官 原 原 隆
- ⑬ 営業用自動車保有台数の将来推計 (主として労働力就業構造との関連から) (建) 九州地建 神田九思男・○森 茂之・針貝武紀
- ⑭ 福岡県に於ける交通事故について 福岡県警交通部管理官 今山 健
- ⑮ 福岡地区における交通機関利用の実態調査について (建) 九州地建 神田九思男○福見俊明

第5回原子力総合シンポジウム

◀ 2月14日(火)～15日(水) ▶

関連 29 学協会の共同主催・日本学術会議ほか5団体の後援で、原子力研究を軸として専門分野を異にする研究者・技術者間の知識の交流および普及をはかる目的で標記のシンポジウムを開催しますので多数ご参加下さるようご案内いたします。

1. 会 場：国立教育会館大会議室・中会議室(東京都港区)

2. 内 容：

2月14日(火) A会場(大会議室)

- 開 会 9.30～
- 講 演 1 10.00～10.50 原子力平和利用の新長期計画
座長(日本原子力発電) 一本松 珠 環
- 講 演 2 11.00～11.50 原子力第1船
座長(原研) 宗 像 英 二
- 総合講演 1 13.30～16.30 原子力発電所用濃縮ウラン製造
について
座長(東京理科大学) 菊 池 正 士
- B会場(中会議室)
- 講 演 3 11.00～11.50 放射線化学
座長(東京大学) 浜 口 博
- パネル討論会 プルトニウムの利用について(13.30～16.30)
座長(日本原子力発電) 吉 岡 俊 男

2月15日(水) A会場(大会議室)

- 総合講演 2 10.00～12.00 液体金属につて
座長(大阪大学・工) 佐 野 忠 雄
- 講 演 4 13.30～14.20 パルス中性子炉の現状と将来
座長(東京大学・工) 西 野 治
- 総合講演 3 14.30～16.30 わが国における放射線防護のあ
ゆみと将来の展望
座長(理化学研究所) 山 崎 文 男
- B会場(中会議室)
- 総合講演 4 10.00～12.00 最近の放射線遮蔽の研究
座長(船舶技術研) 中 田 正 也
- 討 論 会 13.30～16.30 核燃料確保に関する問題点
座長(東京大学・工) 向 坊 隆

注：総合講演のあとに 3～4 点の講演があります。詳細については下記へご連絡下さい。

運営委員会事務局：東京都港区新橋 1-1-13 東電旧館 Tel 591-5489 日本原子力研究所内 日本原子力学会気付